

# 伴学区に5自主避難所

## 安佐南区 町内会が施設と協定

広島市安佐南区伴学区の町内会連合会などが、豪雨災害時に近くの公共施設など5カ所で「自主避難所」を開ける態勢を整えた。市の指定する緊急避難場所は学区内に1カ所だけ。あらかじめ管理者と協定を結ぶなどし、逃げ込みやすい場所として広める。地域ぐるみで「早めの避難」の徹底を目指す。

(久保田剛)



伴学区の住民たちが自主避難所として一部を利用する沼田合同庁舎

## 早めの行動徹底促す

5カ所は、福祉施設「和楽荘」▽とも認定こども園▽市のごみ処理施設「安佐南工場」▽伴中央集会所▽市沼田合同庁舎。いずれも8月までに管理者と協定を結んだり、確認書を交わし

たりして施設内の畳部屋など2部を活用している。さらに福祉施設1カ所も使えるよう市と協議している。市が指定する緊急避難場所の安佐南区スポーツセンターは、学区の東寄りにあ

る。一部の住民が川の氾濫や土砂災害の恐れのある場所を通って移動することになるため、住民から「もっと近くに安全な避難先を設けてほしい」との要望が上がっていた。昨年7月の西日本豪雨では、スポーツセンター以外の公共施設など4カ所に約20人が緊急的に

逃げ込んだ。

町内会連合会や沼田町伴地区コミュニティ推進協議会などは、数年前から管理者と協議を始め、自主避難所にてできる施設を増やしてきた。市が出す「避難準備・高齢者等避難開始」などに合わせて住民が避難できるように、一部の施設では役員が鍵を預かっている。

避難先が増えることで住民の避難意識も高まっているという。今年8月中旬の台風上陸では、合同庁舎など2カ所に約10人が自主避難した。伴学区自主防災会連合会の川原春巳会長(66)は「逃げやすくなった点を生かし、早めの避難をさらに呼び掛けたい」と話す。

